

2) 研究・教育コンポーネント 石田 弘明 氏

生物多様性・生態系を保全するには、保護区の設置・整備、有効な保全・管理計画の策定・施行、環境教育、環境啓発活動といった包括的な活動が必要である。その活動を行うために、保全対象を詳しく知ることが必要であり、調査・研究を実施し、生物多様性情報の収集・分類・整理・発信が必要である。

BBEC では、サバ大学熱帯生物学・保全研究所の研究・教育センターをモデルとして以下の活動を実施した。

- ・ DNA、GIS、電子顕微鏡、データベースシステム、大型収蔵庫、展示室、情報管理室等の配備
- ・ 150 回を超えるセミナー、ワークショップ、研修コースの実施
- ・ 調査研究マニュアル等の教科書の出版 (24 冊)
- ・ 生物相調査の実施 (6 回) とその研究成果論文集の出版 (5 冊)
- ・ 生物標本情報のデータベース化 (約 2 万件) とインターネットでの公開
- ・ 森林生態系のモニタリング・システムの確立

主な成果は以下のとおりである。

- ・ 熱帯生物学・保全研究所の研究・教育能力が向上した。
- ・ 研究・教育能力の向上を持続的に図れる基盤が整備された。
- ・ 分類学・保全生物学について教育された研究者・スタッフ等の人数が増加した。
- ・ サバ州の生物多様性や生態系についての研究が進み、知識が深まった。
- ・ 生物多様性情報を発信・活用するための基盤が整備された。
- ・ 関係諸機関の連携が強化され、発展した。

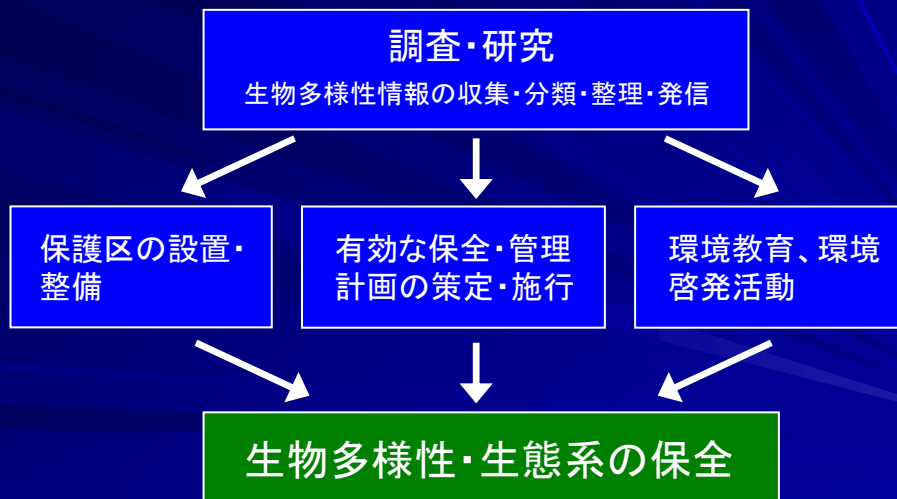


BBECプログラム 研究・教育コンポーネント 活動報告



兵庫県立大学自然・環境科学研究所
兵庫県立人と自然の博物館
石田弘明

生物多様性・生態系を保全するためには



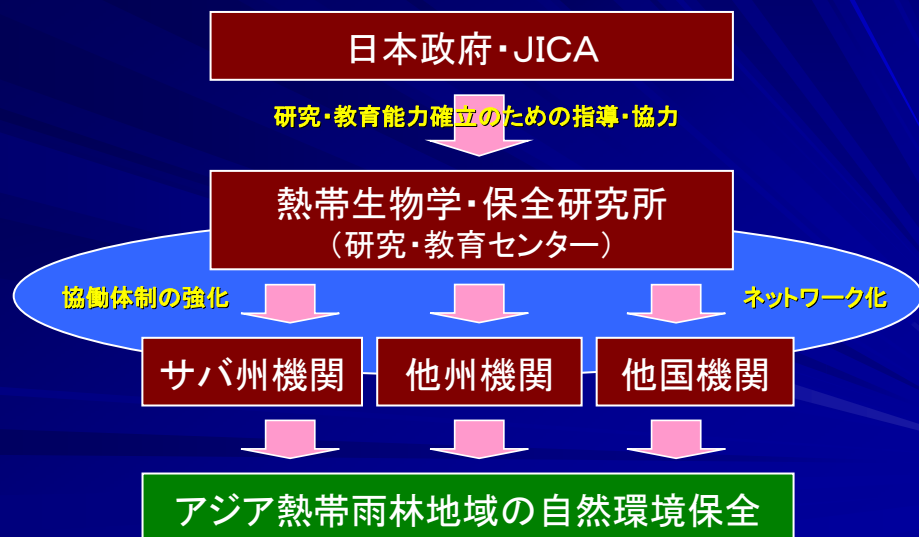
研究・教育コンポーネントの目的

生物多様性・生態系保全のための適切な研究・教育手法が構築される



- 生物多様性研究拠点機関の研究・教育能力の確立
- 生物多様性研究拠点機関間の協働体制の強化

サバ大学 熱帯生物学・保全研究所の研究・教育センター化



熱帯生物学・保全研究所

Institute for Tropical Biology and Conservation (ITBC)



研究・教育コンポーネントの主な活動

- DNA、GIS、電顕、データベースシステム、大型収蔵庫、展示室、情報管理室等の配備
- 150回を超えるセミナー、ワークショップ、研修コースの実施
- 調査研究マニュアル等の教科書の出版(24冊)
- 生物相調査の実施(6回)とその研究成果論文集の出版(5冊)
- 生物標本情報のデータベース化(約2万件)とインターネットでの公開
- 森林生態系モニタリング・システムの確立

研究セミナーの実績

年度	実施回数	参加者数
2002	25	465
2003	26	500
2004	31	745
2005	30	566
2006	9*	157
合計	121	2433

* 4月から7月までのデータ

生物相調査の実績

実施場所	実施年	論文数
キナバタンガン河流域	2002	15
ウルキマニス	2002	27
メララップ	2003	11
セガマ河流域	2003	11
マリアウ盆地	2005	15
クランバ	2006	未出版
	合計	79

参加者数: 40~80名(国内外の研究者)

調査日数: 2~4週間

研究・教育コンポーネントの主な成果

- 熱帯生物学・保全研究所の研究・教育能力が向上した
- 研究・教育能力の向上を持続的に図れる基盤が整備された
- 分類学・保全生物学について教育された研究者・スタッフ等が増えた
- サバ州の生物多様性や生態系についての研究が進み、知識が深まった
- 生物多様性情報を発信・活用するための基盤が整備された
- 関係諸機関の連携が強化され、発展した

